

全国各地に活動が広がる 森のようちえん

飯綱高原ネイチャーセンター 内田幸一

森のようちえんは、様々な地域の自然の中で行われる幼い子どもを対象にした幼児教育活動である。全国各地の森や川、海辺、里山、自然公園等で活動している。四季折々の自然の中、地域環境を生かした活動が行われている。畑の活動や田植え、山菜採りや野草でのお料理など、森の中の散歩や田園や野原での散歩、森や川での遊び昆虫や魚などつかまえることも、果物や野菜の収穫、稲刈り、木の実や小枝、蔦やツル紅葉した落ち葉など自然の物を使った工作など。ジャム作り、干し柿作り、味噌や醤油なども作っている所がある。冬は冬の森の散歩、焚き火で焼き芋やお餅なども焼くなどする。また、季節ごとの伝統行事や収穫祭、餅つきなど保護者との活動も様々なそれぞれの園で行われている。



森のようちえんは、自然と人の生活がつながっていることを日々の体験を通じて子どもたちが捉えられるようにしている。森などの自然環境の中でゆったりした時間を過ごし、思いつくままに遊びを行う自由な時間もたっぷり用意されている。自分の興味関心に従いながら遊びを見つけ、それを行うことが大切にされる。そして、多様で変化に富む自然の中で子ども自身が自ら気づき、不思議に思ったり様々な発見をしたりする。五感を駆使し、感じた事を言葉にし、直接触れる中で自分を取り巻く世界を理解していく。自然の中での遊びや生活は仲間と協力し合うことや話し合うことがたくさんある。年齢の違いや色々な考えを持つ友達とのコミュニケーションを常に行っている。

森のようちえんの中で育つ子どもたちは、自分で考え色々なアイデアを形にして遊ぶことが得意である。友達とよく遊び、小さな子に親切で優しく関わる。山道や坂道を歩くこと森の中で遊ぶことで、体力や身のこなしの良さを身に付けるようになる。けがや病気になりづらく、気持ちも前向きある。刃物などや生活に必要な道具を上手に使い器用さと根気がある。仲間と相談したり自分たちの決まりを話し合いで決めたりすることもできる。

森のようちえんは子どもが子どもらしく、自分らしくいながら、子どもも大人も皆が育ち合う場所です。

